

合唱とオーケストラのための組曲「筑紫讃歌」は名作である。日本を代表するクラシック音楽の作曲家の一人、團伊玖磨氏晩年の大作で、福岡市の市制100周年を記念し、平成元年、同市に献呈された。

氏が父祖の地、福岡市への熱い思いを壮大なスケールで表現したこの組曲は、とにかく人を元気にする。人々に生きることの喜びを喚起させてくれるのだ。

團先生は詩人の犬塚堯氏から詩を受け取り、作曲に入ったが、その雄大な詩の内容から、メロディーは父祖の地を遙かに飛び越え、日本国と海の向こうの国々との交流をも想起させる荘厳かつグローバルな視点の作品に仕上がった。

郷土愛とともに郷土の歴史にも思いをはせ、ひいては万物を愛し、海外の国々と交流を深め、友好関係を築く……。この作品によって老若男女、

筑紫讃歌が訴える平和主義の大切さ



すべての人々が健やかな心身の喜びを自ら発見するだろう。音楽の力は偉大だ。

その一方、国際社会は分断と対立の間で苦しんでいる。英が欧州連合（EU）からの離脱を決定し、反移民・反グローバル化の象徴的存在である不動産王、ドナルド・トランプ氏が米大統領選に当選。そして、友人の女性実業家による国政介入疑惑が発覚した韓国の朴槿恵大統領への辞任を求める空前の規模のデモ……。

これらは単なる時代の流れではない。民衆が望んだ結果であり、紛れもなく私たち一人一人が選択した結論である。トランプ氏が当選したように、日々の短絡的思考や行

動が驚愕の結果をもたらすという事実をわれわれはどれほど自覚しているだろうか。

不信や警戒、排他主義から人間の安らぎや幸せは決して生まれない。私はどんな時代であろうと心身ともに健全に、人を信じ愛する勇気を持ちたい。音楽はわれわれにそう訴える。

13日、福岡市でオーケストラ、コーラスの方々と共に「筑紫讃歌」を高らかに歌いあげ、健やかな精神と生命の躍動、そして真の幸せを実感した。

（さとう・しのぶ＝声楽家）
—毎月第3金曜日掲載

